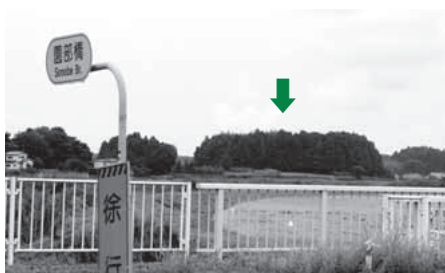


小美玉市の歴史を知ろう②

竹原城跡、戦国時代のおみたま

国道六号線に架かる石岡・小美玉市境の橋「園部橋」から南東側を見渡すと、うつそうとした森が田んぼ中に見ることができず。この森には、今から遡ること、約四百五十年前の戦国時代に築城された竹原城が所在しています。(左写真矢印)



園部橋からみた竹原城

竹原城は、園部川に突き出した舌状台地の特徴を巧みに利用して築城され、本丸、外郭、土塁、壕などの施設が確認されています。本丸が東西一・五m、南北一・〇m、外郭は東西二・八m、南北二・〇mの規模を誇ります。園部川

に架かる橋は大手橋と呼ばれています。現在では、本丸は雑木林、外郭は畑地と竹やぶ、壕は水田となっています。発掘調査が実施されていないので、城内にどのような建物があつたかはよく分かっていません。さらに、城跡の北側と東側にも壕の痕跡が複数確認されていることから、竹原城は大規模な城郭であつたものと推定されています。

平成十九年、城跡北側の壕跡よりもさらに北側、本丸から北東四〇〇mの地点で発掘調査が実施され、南北方向に伸びる二本の溝が確認されました。溝からは、煮炊きに使

用した内耳土鍋、火鉢、古瀬戸焼、常滑焼の破片が出土しています。この溝は、竹原城の外郭的な施設である可能性があります。

この調査では、竹原城の築城以前である古代(約千二百年前)の住居址が四軒、確認されました。住居からは大量の土器(須恵器・土師器)が出土し、少量ですが、鉄製の道具もありました。また、「立田家」と墨で書かれた土器も

見つかっています。これらの古代の出土遺物は現在、玉里史料館で開催されている参考展「おみたま、発掘」にて展示されています。参考展の開催は十月十九日(日)までです。話題を竹原城に戻しますと、永禄二年(一五五九)、竹原城は、現在の石岡を中心

に勢力を誇っていた大掾貞国が府中城の支城として築城し、城主には、弟義国を任じました。これより遡ること二十余年、天文六年(一五三七)、兄貞国の命により、義国は田木谷の取手山にも館を築き、小河城主、園部宮内大輔の侵攻に備えました。

天正年間、小美玉の地では、園部川を境に大掾氏と水戸城主江戸氏、園部氏との間で幾多の合戦がありました。天正十三年(一五八五)、江戸氏は、片倉の地に砦を築き、大掾氏に対する最前基地としました。同年、大掾清幹(貞国の嫡子)は、弓削の地(竹原)に砦を築城してそれに対抗しました。翌年八月には、江戸氏は弓削砦を攻め落し、

府中に侵攻しました。大掾氏は真壁氏らの援軍を得て、これを撃退し、佐竹義重の仲介によって江戸氏と和議が結ばれました。この一連の戦いは府中合戦と呼ばれています。

その後、佐竹義宣は小田原攻めに功績を挙げ、天正十八(二五九〇)年八月、豊臣秀吉から朱印状をもつて、常陸と下野の地に領知を安堵されました。同年十二月、佐竹氏は江戸氏に続いて、大掾氏をも攻略しました。この時、竹原城主義国も討死し、竹原城も築城から僅か三十一年で落城したと伝えられています。



古代の出土遺物



竹原城跡出土の中世遺物

(今回の掲載は12月号です)
【小美玉市教育委員会
生涯学習課 ☎ 26-9111】

裁判員制度

Q&A



裁判員制度とは、国民の皆さんに裁判員として刑事裁判に参加してもらい、被告人が有罪か無罪か、有罪の場合どのような刑にするのかを裁判官と一緒に決めてもらう制度です。

裁判員制度は、国民皆さんの積極的な協力をなくしては成り立たない制度です。

このQ&Aを通して、裁判員制度に理解を深め、刑事裁判に参加することへの負担感や不安感を少しでも軽減していただきたいと思います。

Q1 裁判所に行く日のどれくらい前に、その日時を知らせてもらえるのですか？

A1 通常は裁判の6週間前までは通知をします。

原則として期日の6週間前までに、また、審理の間が通常よりも長くかかると考えられる事件については、8週間程度前までにはお知らせする予定です。また、このお知らせには、裁判員に選ばれた場合にいつからどの程度の期間務めていただくか(職務従事予定期間)を記載します。